

岩間正則（教授）

○専門分野 国語教育 教師教育

○担当科目

国語科教育法Ⅰ 教職国語科 教師論 中学校・高等学校教育実習
道徳教育 教職実践演習 キャリアスキル演習Ⅴ

○略歴

- ・横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校副校長（2006年～2008年）
- ・鶴見大学文学部（2008年～）

○学位 横浜国立大学大学院教育学研究科国語教育専攻（修士（教育学））

○著書・論文

- ・『PISAの「読解力」調査と全国学力・学習状況調査——中学校の国語科の言語能力を中心に』
2014年（神奈川新聞社）
- ・『中学生の「記述力」を育てる6つの要素——すぐに使える珠玉の授業プラン19』2010年
（明治図書）
- ・『文科省全国学力調査 中学校国語B問題対応の教材開発——知識・技能を活用する「記述式」の課題
づくり』岩間正則編著 2009年（明治図書）
- ・「中学校学習指導要領実施上の課題とその改善（国語）」『中等教育資料6月号』2014年
（学事出版）10-15頁
- ・「教師に必要な資質能力を高める～教職課程の授業を通してコメント力、プレゼン力を身に付ける～」
『鶴見大学教育課程年報 第6号』2022年 9-25頁
- ・「指導と評価の一体化に対応する学習指導案についての検討」『鶴見大学国語教育研究会誌 第5号』
2022年 16-33頁

○社会における活動

- ・中学校国語教科書『新編 新しい国語』（東京書籍）編集委員（1992年～現在）
- ・中学校学習指導要領解説国語編作成協力者（2006年～2008年）
- ・全国学力・学習状況調査問題作成委員（2012～2014）

○教職課程を目指す方へ

2021年度より平成29年版学習指導要領が中学校では全面実施となり、2022年度より平成30年版学習指導要領が高等学校では年次進行で実施されました。平成29・30年版学習指導要領の改訂では、社会で生きて働く資質・能力の育成が、これまで以上に重視されるようになってきました。こうしたコンピテンシーベースの教育改革の流れは今後も続きます。また、社会の変化も激しく、様々な課題が教育に大きな影響を与えています。特にGIGAスクール構想に基づき一人一台情報端末の活用が当たり前になり、授業も大きく変化してきています。こうした中であって教師を目指すためには、新たなパラダイムに対応できるような柔軟な思考力と実践力を身に付けていくことが求められます。そうした教師としての資質能力を大学として育成していきたいと考えています。

岸本智典（准教授）

○専門分野 教育学／アメリカ教育思想史

○担当科目

教育原理 学校の制度 教育課程論 教育の方法及び技術（ICT活用を含む）／教育の方法と技術
生徒指導とキャリア形成 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 コミュニケーション論

○略歴

作新学院大学女子短期大学部専任講師（2015～2018）

昭和音楽大学音楽学部専任講師（2018～2023）

鶴見大学文学部准教授（2023～）

○学位

慶應義塾大学大学院社会学研究科教育学専攻博士後期課程単位取得退学
修士（教育学）

○著書・論文

『道徳教育の地図を描く』（編著、教育評論社、2022年）

「デューイによるジェイムズ思想の継承と展開」『デューイの思想形成と経験の成長過程』（行安茂編著、北樹出版、2022年）

B. ククリック著『アメリカ哲学史——七二〇年から二〇〇〇年まで』（共訳、勁草書房、2020年）

「アメリカ「児童研究」から教育心理学へ」『西洋教育思想史 [第2版]』（眞壁宏幹編著、慶應義塾大学出版会、2020年）

『ウィリアム・ジェイムズのことば』（編著、教育評論社、2018年）

「W. ジェイムズ教育論における「注意の持続」の意味」（『日本デューイ学会紀要』第58号、日本デューイ学会、2017年）ほか。

○社会における活動

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 専門委員（2019～2022）

アメリカ教育史研究会 事務局幹事（2019～2021）

○教職課程を目指す方へ

私の大好きな言葉に、教育学者の松岡信義さんが書かれた「キャンパスは差異と共感が高密度で循環する空間」という言葉があります。この鶴見大学に来る前に別のいくつかの大学で教えてきましたが、毎年、卒業する学生さんたちにこの言葉を送り続けてきました。教室では対峙する関係にある私たちは、〈教える・教えられる〉関係性のなかで、お互いの「差異」を感じる場面のほうが多いかもしれません。偉そうに語る私に対して反感を抱く方もいらっしゃることでしょう。この言葉はそうした反感すらも大学の「キャンパス」ではおおいに結構なことだと言うような、寛容な響きも持ちます。

ただ、時に「共感」が生まれる場面もひょっとしたら訪れるかもしれません。最初は楽しそうな顔をしていなかった学問というものも、そうした共感のなかで皆さんに少しずつ語りかけてくることもあるでしょう。もし、教育学という幅と奥行きのある学問を通じて、皆さんが強い「共感」を覚えられたとしたら……。

その時はぜひ教師となって、皆さん自身の力でこれからの世界を変えていただければと思います。